

学校応援プロジェクト 2025 年度活動報告 中央大学附属中学校 進路・キャリア教育学習プロジェクト

11月15日（土）に中央大学附属中学校3年生173名をお迎えし、今年度3回目となるキャリア教育プロジェクトを多摩キャンパスのFOREST GATEWAY CHUOにて実施しました。

今回のプロジェクトは、中央大学が実施する中-大連携教育プログラムの中の一企画「なぜ大学で学ぶの？」を担うもので、毎年この時期に開催され、中学生が「大学で学ぶということ」について学び考える機会とすることをねらいとするものでした。

当日は、大学1年生から院生まで幅広い年齢層の、さまざまな学部・学科や専攻に所属する33名のプロジェクトメンバーが参加しました。



プログラムは、生徒のみなさんの集合が完了するまでのあいだホールにおいて「キャンパスムービー」を上映した後、クラスごとに分かれて「アイスブレイク」、さらに「キャンパスツアー」、休憩を挟んで「模擬授業」、そして最後に「キャリア相談」と展開しました。

【アイスブレイク】

中附中の先生方からのご要望も踏まえて、各活動や模擬授業の前に生徒のみなさんの緊張をほぐして学生との親睦を深めてもらおうと考え、最初のプログラムは「アイスブレイク」とし、今回は〈有名人当てゲーム〉を行いました。

クラスごとの5つの教室では、それぞれに6つに分かれた各班が、1問ごとに我先にと大きな声で班番号を告げつつ挙手して答えを出しあい、正解の数を競い合いながら生徒・学生間の距離を縮め、ともに楽しんでいるようすが見受けられました。

一部の教室では機材トラブルが生じたりもしましたが、公平さを期そうと予め決めておいた、声で班番号を言いながら挙手する、というルール上の工夫が功を奏したこともあってか、全体としては滞りなく進行することができ、肝心の親睦を深めるという目的も果たせたと振り返っています。

【キャンパスツアー】

アイスブレイクの後には、ゲームを楽しんだのと同じ班で、学生主導のキャンパスツアーを行いました。当日は天気も良く、生徒のみなさんからは「紅葉が綺麗」という声も聞かれました。また今回は3号館の大教室や図書館の内部まで見学することができたことから、中学校の施設と大学のそれとのスケールの違いを身近に感じられたのではないのでしょうか。

キャンパスを実際に歩いてみると、画像や動画では分からない雰囲気を感じられるほか、大学の施設やキャンパスそのものについて、より具体的なイメージが描きやすくなるので

はないかと思います。その意味で、このような機会は可能な限りこれからも設けていくべきだろうと考えます。

【模擬授業】

学生が大学での自身の学びから授業案を練り、資料を作成したりして調えた 14 テーマ、15 の授業を用意し、中学生のみなさんにはその中から各自の希望する 2 つ（40 分×2 コマ）を受講してもらいました。

「公害から考える歴史学」、「『科学的真理』を歴史学から考える」、「不思議な物理の世界」、「Do you know 戯書?」、「Scratch でゲームを作ろう!」、「Let's make kotowaza!」



「結局『いじめ』って何?」などなど、特色ある授業が展開され、生徒は映し出されるスライドに真剣なまなざしを向けたり、学生と活発に意見交換をしたりなどして取り組んでいました。

大学生がそれぞれの日々の学びをふまえて、あるいはそれらと関連づけて組み立てた授業が、中学生のみなさんが「なぜ大学で学ぶの?」というテーマについて考えるきっかけになったり、場合によっては一つの小さな答えになった

たりしていたとすれば、それに優る喜びはありませんが、どうだったでしょうか。

一方で大学生にとっては、中学生を対象に、しかも自身の得意とする分野や関心の高い内容で授業を行うことができ、教育実習とはまた別の、貴重な体験になったのではないかと思います。

【キャリア相談】

キャリア相談はこれまでの形式を踏襲し、アイスブレイク班やキャンパスツアー班等と同様に、生徒 5、6 人に学生 1 人が対応するという体制で実施しました。10 分の相談活動を 2 回おこなうなかで大学での使用教科書や実際の時間割を示したり、大学の特色や学生としての日々の思いなども伝えたりしたことで、「大学」や「学生生活」について一定のイメージは持ってもらえたのでは、と思っていますが、事後の振り返りミーティングにおいて、「もう少し時間をとってもよかったのではないか」等の意見が出されたとおり、10 分 2 セットは確かに短く、当日、どこか慌ただしい雰囲気が感じられたのも、そのせいであつたかと省みています。次回は改善したいと思います。

また、事後アンケートを読むと、進路や大学での授業などについて、「もっと聞きたかった」、「もっと知りたかった」との思いが残っていたことが判り、生徒一人ひとりの関心や疑問により寄り添えるような方法をさらに模索していかなくてはならないと思っています。

さて、一方で、事後アンケートには、「大学に行く想像がしやすくなってよかった」、「大

学へのイメージが変わり、早く大学生になりたいくなった」、「大学生活についての具体的な話が聞けて、とても参考になった」といった所感が多く見られたのも事実です。中学生のみなさんが少しでも、また一人でも多く将来の自分を思い描いてくれたとすれば、今回のプロジェクトの当面の目的の一つが果たせたという意味でも、うれしさはこの上ありません。



それにしても、準備期間には白門祭があったこともあり、参加メンバーの募集に苦戦したことは確かですが、どの班も、当日までの日にちが短いことをいい意味で意識し、当初から決めておいた本番直前の最終ミーティングに向けて積極的・精力的に準備を進めてくれたことで、実りある当日が迎えられました。

メンバーのみなさんにとっても、自身の強み・弱みのへの気づきやブラッシュアップ等につながるところがあったとすれば、今回のプロジェクトの意義は少なからずあったと言えるのかな、と思っています。

中央大学附属中学校3年生のみなさん、改めて、ありがとうございました！